

■今年の国語は！？

例年通り。読解力・語彙力ともに試される骨太の良問

■出題形式

問題構成は、例年通り大問3問。㊦ 物語文、㊧ 論説文、㊨ 漢字。例年、㊦・㊧ともに1問ずつ記述問題がある。今年度('20年度)は80字以内の記述であった(昨年度('19年度)は60字程度、'18年以前は90~100字程度)。㊨は昨年度と同様、漢字の読み4問、書き取り6問であった。

■出題内容

A 日程

- ㊦ 物語文：『天地ダイアリー』 ささきあり 約4000字 フレーベル館
- ㊧ 論説文：『春の数えかた』 日高敏隆 約2400字 新潮社
- ㊨ 漢字：読み取り4問、書き取り6問

過去のトラウマから自信が持てずに軽度のマスク依存症になっている木下は、スクールカーストのなかでは下層の栽培委員会に入部する……。新しい環境の中で出会った個性的な仲間とともに成長していく子どもたちの物語。

出題内容は例年と大きな変更はなく、語句の意味を選択させる問題、副詞を選択させる問題、行動理由を説明した文の空所補充問題などが出題された。記述については、心情変化を問う80字以内の記述が出題された。また、字数指定のない記述問題はなかった。選択問題では、例年「適当でないもの」を選択させる問題が出題されていたが、今年度('20年度)は見られなかった。ただし、B日程では出題されており、例年はA日程も含めて出題されている。

㊦ 「春が来れば花が咲き、虫が集う。」という当たり前のようではあるが、そのような自然界の不思議について日本を代表する動物行動学者がまとめた作品。出題内容に例年と大きな変更はないが、㊦でも言葉の意味を出題したのは珍しいケースであった。また、㊦と同様に字数指定のない記述問題はなかった。

㊨ 漢字の読み取りは、使われている一つひとつの漢字は易しいが、熟語になると読みの難しいものが出題されている。「内②輪④(話)」「根③負③(け)」「大①局③(的)」「気①位④」(※○の中の数字は学年を表す)。

B 日程

- ㊦ 物語文：『川の向こうの図書館』 池田ゆみる 約5000字
- ㊧ 論説文：『科学的思考とは何だろうか』 瀬戸一夫 約2000字
- ㊨ 漢字の知識(漢字の読み4問、書き6問)

C 日程 非公表

全日程で構成にそれほど大きな違いはないが、B日程・C日程の方が難易度はやや高くなっている。

■傾向と対策

接続語や副詞の挿入、語句の意味(選択)、語句の完成(空所補充)、選択問題など、出題傾向に大きな変化はないので、過去問題を十分に解いておく必要があります。知識分野については、ことわざ、慣用句、故事成語などが必ず出題されるので、習った直後に復習をすることはもちろんのこと、その後も反復練習を怠らないようにしてください。特に漢字について、今年度はB日程で「風②聞②」「相③席④」、昨年度はA日程で「所③信④」とB日程で「人①出①」、'18年度はA日程で「小①手①先①」「言②外②」「感③服③」(○数字は配当学年)などが出題されています。これらのような熟語を、既存の『漢字ドリル』などで習得するのは不十分なので、漢字辞典を使った学習が必須となります。漢字の書き取りはもちろん、間違えた問題は意味や用法を確認したうえで、さらなる反復練習が必要といえます。

論説文では「筆者の主張(言いたいこと)が書かれている部分=接続語や段落のつながりを考えて読み、話題と結論を把握する」と「具体例(筆者の主張をわかりやすく説明している)部分」を意識して読む習慣を身につけてください。物語文は登場人物の言動や表情の表現に注意して、心情を読み取るようにしましょう。また、当然ですが、この学校を第一志望とする受験生は、全日程の過去問題を解くようにしてください。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	3問	3問	3問
小問数	15問	14問	14問
配点	120点	120点	120点
	専願/併願	専願/併願	専願/併願
最高点	106/102	97/101	96/103
受験者平均点	76.4(全体)	69.4(全体)	69.9(全体)
合格者平均点	78.9/84.5	71.5/78.8	70.2/81.7

※ 昨年度同様漢字読み4問と漢字書き6問を小問2とカウントした。
 ※ 3科受験は得点(320点)を400点満点に換算して判定。
 ※ 4科受験は、3教科(国・算・理)のみの換算得点も算出し、点数の高い方の得点で判定。
 ※ 出願時、申請のあった英検4級以上取得の受験生には加点。

■今年の算数は！？

今年も前半は典型的な基本問題、後半は作業や論理的な思考を問う問題！

■出題形式

’14 年度から大問 5 問、120 点満点となり、現在も踏襲されている。①は四則計算問題が 4 問と計算問題レベルの独立小問が 1 問。②は文章題・図形に関する独立小問が 5 問。③は小問 2 問ずつで構成された問題が 2 問。④、⑤は、小問 3 問ずつで構成された大問になっている。以前から作図または求め方を記入させる問題が散見されるが、今年度（’20 年度）はなかった。見取り図を描かせる問題と論理の表を埋めさせる小問が出題されている。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
制限時間	60 分	60 分	60 分
大問数	5 問	5 問	5 問
小問数	21 問	24 問	23 問
配点	120 点	120 点	120 点
	専願/併願	専願/併願	専願/併願
最高点	96/82	103/120	85/108
受験者平均点 (全体)	50.9	69.6	52.8
合格者平均点	57.4/62.2	77.2/85.5	54.6/64.8

※ 3 科受験は得点 (320 点) を 400 点満点に換算して判定。
4 科受験は、3 教科 (国・算・理) のみの換算得点も算出し、点数の高い方の得点で判定。
※ 出願時、申請のあった英検 4 級以上取得の受験生には加算。

■出題内容

① (1)～(4) 四則計算 (5) 比例・反比例

② (1) 速さ (2) 平均算 (3) 倍数変化算 (4) 面積比 (相似) (5) 図形や点の移動

③ (1) ①②割合 (消費税) (2) ①②立体図形 (投影図・見取り図) ④ (1)～(3) 論理 ⑤ (1)～(3) 図形や点の移動

① (1) 整数の加減。(2) 小数と分数の四則計算。(3) 未知数を求める計算。(4) 工夫する計算。(5) 比例を利用した計算。(1)～(3) は例年通りの出題で、例年 (4) と (5) は「数の性質・規則性」を扱う問題が出題されていたが、今年度は (4) まで四則計算であった。全問正解を目指してほしい。② (1) 速さの問題で、速さの比から時間の比を求めて解く。(2) 線分図を使って解く平均算。(3) 標準的な倍数変化算。(4) 相似を利用して面積比を求める問題。(5) 半円の移動によってできる面積を求める問題。与えられている条件の意味をよく考えて解きたい。(1)～(5) のいずれも典型的な問題を若干難しくしている。どれもテキストや問題集で見たことがあるはずなので、ミスなく全問正解したい。③ (1) 割合に関する問題。昨年度（’19 年度）は商品売買であった。今年度は軽減税率を盛り込んだ内容となっている。目新しく感じるが、本質は、①は標準的な割合の問題。②もつるかめ算。(2) 立体図形の投影図が示されており、①は体積を求める問題、②は見取り図をかかせる問題。頭よりも手を動かして図をかくことが大切だが、思いつかない場合は、後回しにしてもよい。④ (1)～(3) 昨年度に引き続き論理の問題。今年度は、5 人のプレゼント交換を題材にしている。類題が’07 年度に同志社中学校で出題されている。この問題は、テキストや過去問に見られる問題で扱っている問題なので、正解してほしいところ。⑤ 正三角形が、(1) では正六角形の内側を、(2) では正方形の内側を、(3) では正六角形の外側を、それぞれすべらないように転がる時に、正三角形の 1 つの頂点が動いてできる線の長さや形や面積を求める問題。いずれも、ていねいに作図して半径や中心角を求めて解きたい。

■合格に向けての対策

算数の合格者平均点の推移は、’18 年度から昨年度にかけては上がっており、昨年度から今年度にかけては下がっています。これらのことから、難易度は隔年現象で交互に変動する可能性が非常に高いといえます。

問題自体は決して難しくはないものの、「平易で手応えのある問題が少なく、問題枚数が多いことから圧迫感があり、さらに後半の問題の文章が長い。」という事情により、受験生が「とっつきにくくて解きにくい」という印象を持ってしまう可能性があります。よって、受験対策は「解きにくそう」という先入観の払拭から始まる、と考えておいた方がよいでしょう。

決して高得点勝負の学校ではないので、過去問演習の専願受験者で 55%、併願受験者で 65% の得点を目標として取り組んでください。なお、I 類の合格ラインは公表されていないので注意が必要です。75～80% を合格ラインと推定できます。

I 類志望者は、①～②の全問と③・④・⑤の小問の半分は確実に得点してください。また、II 類志望者は①～②の全問正解を目標にし、③の各①、④・⑤の (1) レベルを確実に得点できるようにしておきましょう。そのためにも、次の①～④の点に留意して取り組んでください。

- ① テキストや過去問の学習に於いて、標準的な問題を正しく速く解けるようにしておくこと。
- ② 文章題から図形問題まで幅広く出題されるので、苦手分野を作らないこと。
- ③ 算数全領域の基本問題を確実に正解できるようにしておくこと…、例えば、今年度④のような論理の問題や、⑤のような点や図形の移動の問題のように、ていねいな作業を要する問題も頻出しているので、図や条件を書き出す練習をしておかなければなりません。
- ④ 時間管理の徹底…、時間配分に関する研究を行っておかないと、難易度に関係なく最後までとどり着けません。

秋期以降、担当者の指示に従い、基本問題の反復学習と過去問練習を通じた時間配分の訓練を実施することが望まれます。

■今年の理科は！？

物化生地の基本問題がほとんど！！が、知識だけでなく思考力と求める問題も出た！

■出題形式

’14年度から、満点が100点から80点に変更され、それに伴って出題形式も大きく変わり、小問数は’17年度の53問を除き41問か42問で推移している。今年度(’20年度)も例年と変わらない小問数であった。ただし、大問数は昨年度(’19年度)以前と違い、これまで出題されていた¹の物化地生の各分野からの、ほぼ一問一答形式の知識を問う問題がなくなったことに伴って1問減り、物化地生の各分野から大問で1問ずつの、計4問の出題となっている。また、’16年度以前は各大問に2単元のテーマが含まれていたが、’17年度では²のみ、’18年度は無く、昨年度は³、⁴、今年度は¹のみと、大問数やその構成が変化を続けている。

小問について、今年度は解答欄数で41問、記号選択問題21問、用語解答5問、数値記入1問、計算問題12問、空欄補充式の記述が1問、グラフの作図1問、作図1問の構成となっている。空欄補充式とはいえ記述があり、グラフを含めた作図や用語解答が多いことから、昨今の「考える力」重視の入試を意識しているのかもしれない。また、計算問題も例年通り出題されたが、園生にとっては授業で扱ったことのある基本レベルの出題以外に、問題文や図中にある数値を読み取って計算をする内容のものもあり、これらからも考えさせる問題を出题する傾向が伺える。ただ、全体としては基本問題も多いため、受験者平均点の若干の上昇(昨年度45.3点→今年度46.3点)が見られる。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	5問	5問	4問
小問数	41問	42問	41問
配点	80点	80点	80点
	専願/併願	専願/併願	専願/併願
最高点	66/63	72/70	73/72
受験者平均点	40.7 (全体)	45.3 (全体)	46.3 (全体)
合格者平均点	44.2/48.2	47.8/54.5	46.5/54.5

※ 3科目受験は3科目の320点満点を400点満点に換算して判定。
4科目受験は4科目合計の400点満点と、(国・算・理)の320点満点を400点満点に換算したもののうち高い方で判定。

■出題内容

- ¹ 生物 (植物の分類, 食物連鎖)
- ² 化学 (もののあたたまり方)
- ³ 物理 (豆電球, LEDの電流計算)
- ⁴ 地学 (月)

- ¹ 前半は植物の分類、後半は食物連鎖で、基本知識で解ける。最後の2問は計算問題だが、文中と図中の数値を読み取ってそのまま計算していけば解けるので、難しくはない。
- ² もののあたたまり方の問題。前半は伝導についての内容で基本知識問題。計算もあるが、これも文中の数値を読み取ってそのまま計算していけば解ける。後半は水の加熱で、最後の(6)だけは少し思考力が必要である。
- ³ 前半は豆電球の電流計算で、園生にとっては授業内でやったことのある問題である。後半は、豆電球とLEDの混合回路での電流計算で、まずLEDに電流が流れるのかどうかを判断し、回路を書き換えられるかがポイント。場合によっては部分的にショートしたり、直列と並列がつながった回路になったりと、かなり難度は高い。考えさせる出題である。
- ⁴ 月の動きと見え方の問題。ほぼ基本知識問題。最後の(6)は月から地球を見たときの地球の見え方を問う問題で、既習知識を使って考える内容である。

■合格に向けての対策

今年度も基本問題が多数出題されました。基本問題の反復練習を怠らず、さまざまな言い回しの問いに対して的確に答える訓練が必要です。さらに、「正しいものを選べ」・「まちがっているものを選べ」等のパターンも含めて即応即答できるようにも訓練を積み重ねてください。また、’17年度、’19年度のように、既存の知識をもとに読み解く問題が隔年で出題されているので、このような傾向は、次年度(’21年度)において全体の小問数が少なければ出てくるかということです。日々の学習の中で、よく似た事象を結び付け、関連付けをしていくようにすることが必要です。知識問題に関しては、分野ごとにある程度まとまった基本問題が今後も出題されると考えられます。5年・6年の宿題テキストの★×2までが確実にできていればいいので、とにかく、苦手単元をなくし、まんべんなく点数を取れるようにして、理科を得点源とできるよう学習を進めてください。

■今年の社会は！？

登美ヶ丘の地理はやはり難しい！歴史と政治問題はしっかり得点できる！

■出題形式

相変わらず地理問題はレベルの高い難問があり、これは「簡単には満点をとらさない。」という学校側の意気込みであろうか。

今年度（'20年度）は大問3問の出題、40分80点満点、小問数は40問で、昨年度（'19年度）と同様で変化はない。かつての入試の特徴であった文章記述解答の問題は6年連続で出題されなかった。用語解答は、9問中8問が漢字指定であった。用語解答の問題は、ほぼ漢字指定と考えてよい。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	3問	3問	3問
小問数	40問	40問	40問
配点	80点	80点	80点
	専願/併願	専願/併願	専願/併願
最高点	76/76	68/68	68/70
受験者平均点	52.2	47.6	43.1
合格者平均点	55.2/59.9	50.7/59.5	41.6/50.7

※ 3科目受験は3科目の320点満点を400点満点に換算して判定。
4科目受験は4科目合計の400点満点と、(国・算・理)の320点満点を400点満点に換算したもののうち高い方で判定。

■出題内容

- 1 地理総合 大阪G20サミットに関連して
- 2 歴史総合 日本の宗教の通史
- 3 政治総合 最近のニュースに関連して

1 G20サミット大阪会議をテーマにした地理総合問題。出題の一つひとつは正攻法の地理問題であるが、登美ヶ丘の地理問題となるといささか面倒なものになる。「北海道・長野・愛媛の雨温グラフの比較」「新潟港・博多港・大阪港・名古屋港の輸出品目統計表の比較」「つくば市・岡山市・松山市・名古屋市の高齢者人口比率と第二次産業従事者率の比較」「中国・アメリカ・オーストラリア・ブラジルの年間訪日者数の比較」などの、表を通して考えさせる登美ヶ丘らしい出題である。特に日本でおきた家畜の伝染病（口蹄疫・鳥インフルエンザ・豚コレラ）の発生県を選ばせる問題は難問。一方、「新潟水俣病」の毒素の有機水銀が流れ込んだ川の名（阿賀野川）、福岡県にある工業地帯（北九州工業地帯）を問うなどの基本問題もあり、あいかわらず難問と基本問題のレベル差が大きい。前述した統計・表に関する問題は多く出題され、本校の代表的傾向となっている。

2 毎年テーマ史の問題。今年度は日本の宗教の歴史の流れに基づく典型的な総合問題。例年、歴史問題は基本問題のみである。今年度は四文択一の選択問題とともに、最近中学入試の流行の2文の正誤組合せ選択問題が多く出題され、出来事の時代順並べ替え問題も増加した。慎重に問題にあたり、ここで点数を落とさないことが重要である。

3 オーソドックスな政治総合問題。時事問題（最近のニュースについての問題）のようにつくってあるが、基本知識を問う問題を集めたものである。消費税の特徴、公債金（国債）の説明などを問う問題は日頃習得した知識で対処できる。ただし、2020年の第32回東京（2回目）オリンピックから、1回目の東京オリンピックが第何回目だったか（1964年開催なので、4年ごとに逆算すれば第18回）を計算させる問題は、意外な出題だった。恒例の日本国憲法条文の用語穴埋め（8年連続の出題）は、やはり出題され、第19・76条の文中の“司法（権）”“良心”を問う問題だった。2と同様、基本的に解きやすい問題だったので、日頃の学習の成果が発揮できただろう。

■合格に向けての対策

上述しましたが、地理分野は様々な統計資料・地図を駆使して問題がつけられています。雨温グラフなどについての出題も増加の一途をたどっています。オリジナルの表を作って読みとり問題をつくる東大寺学園や西大和学園の問題が参考となります。日頃から『地図帳』『日本のすがた』で、地形と気候の特色、地域とその産業の特徴を関連付けて学習しておきましょう。

歴史分野は、各時代の出来事やことがらからの出題で、難易度は標準レベルです。四文択一の正誤選択問題は当然出題され、二文正誤組み合わせ選択問題が必出です。また、漢字指定の用語記述も出題されています。対策としては、学園のテキスト・歴史資料の内容や日曜進学教室の復習を十分に行うことですが、奈良の他の中学の入試問題が参考になるので必ず見ておくべきです。

政治・時事分野は、必出の憲法条文の穴埋めをはじめとした日本の政治分野に関する標準的な問題が出題されます。時事問題の要素も出題されるので要注意です。

まとめると、

- ① 資料・グラフを使った地理分野対策（東大寺学園・西大和学園などの奈良の入試の類似問題などの演習）
- ② 歴史基本用語（漢字指定）の確認と、正誤問題対策として正しい基礎知識取得の徹底

が必要です。